

長野県北部地震
栄村震災記録集

絆

別冊版

栄村震災 *10* 年の
あゆみ



栄村震災10年のあゆみ

発刊のご挨拶

栄村長

宮川 幹雄



本村は、平成23年3月12日、午前3時59分に発生した、震度6強という直下型大地震から10年という節目の日を迎えることになりました。地震発生から切れ目なく余震が続き、震度6弱が2回、震度5弱が1回を含め、7時間のうちに大きな揺れを130回も記録しました。地震発生の瞬間から始まったその日の絶望は、決して忘れることはないでしょう。そして、まだ2メートル近い積雪がある中での経験したことのない避難所生活が始まりました。

10年という年月は長かったようでもあり、また一瞬の時間であったように今では感じます。また、地震直後から10億円を超える義援金・寄付金など、国・県をはじめ全国の多くの皆様からの物心両面にわたるご支援により、村民に大きな希望と勇気をいただいたことに、あらためて心から感謝を申し上げます。

この10年の間、村民全員が様々な想いのなかで、悲しみや苦しみを乗り越え、助け合って、今日まで歩んできました。私たちはこの10年という節目に、もう一度今までの日々を振り返り、そして、これまでの歩みに自信と誇りを持って、未来に踏み出していく決意でいます。

震災の翌年、平成24年に策定した震災復興計画では、基本目標に「震災を乗り越え、集落に子ども元氣な声が響く村」を設定し、その達成のために①「暮らしの拠点・集落の復興・再生」、②「農業を軸に資源を活かした新たな産業振興」、③「災害に強い道路ネットワークの構築」の三つの基本方針を掲げ、村の復興と再生に取り

組んできました。

一つ目の目標としては、集落ごとの復興住宅の整備、公民館の新築・改修を、集落の皆さんと話し合いながら、計画的に進めることができました。二つ目の目標については、新たな産業振興とは言い難いところですが、大型農業機械が各営農組織に配備され、震災前とは比較できない機動力で稲作づくりに取り組めるようになりました。また、農産物の直売所も物産センターと並んで設置され、信越県境における村の賑わい処としての一翼を担っています。今後はさらに風土感のある産業の振興に力を注いでいかなくてもなりません。三つ目の目標では、県道長瀬横倉停線「かい回り坂」の改良が終わり、一番悪かったところは改善されました。また、県道箕作飯山線も令和2年11月に全線が開通し、60年にわたる交通不能区間が解消されました。さらに、新潟県境の旧宝山荘付近の県道改良、秋山郷へ続く国道405号も計画的に改良が進められ、災害に強い道路ネットワークは確実に前進しています。

このように村民の皆さんと共に復興に向けての歩みを進めてきたところですが、残念ながら人口の減少には歯止めがかからず、震災当時927世帯、2、330人あった人口は、令和3年1月には803世帯、1、746人となり、この10年間で約500人が減少しました。

また、近年では大規模な自然災害の頻発、新型コロナウイルス感染症の拡大など、今までの社会からの転換を迫られる事態となっています。このような事態にあるからこそ、自分たちの足元を見つめ直し、地域の絆を守りながら、子どもたちの未来のために、全力で村の発展に取り組んでいく覚悟でいます。

震災からの10年を村民自らの励みとし、ご支援をいただいた全国の皆様に重ねての感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和3年3月

目次

1

長野県北部地震による被害

3
4

2

震災10年のあゆみ

5
11

3

震災から10年を迎えて（村民からの寄稿）

12
15

4

写真で振り返る10年

16
20

地震の概要
被害の概要
避難の状況
救助活動等の状況

震災から10年を迎えて（村民からの寄稿）
時間の流れは……… 齋藤 眞吾さん（切欠）
人生を共有する方……… 渡辺 俊男さん（箕作）
あの時……… 宮川 裕子さん（野田沢）
夢に向かって歩み続ける… 樋口 正幸さん（小滝）

長野県北部地震の概要

日 時／平成 23 年（2011 年）3 月 12 日
3 時 59 分頃

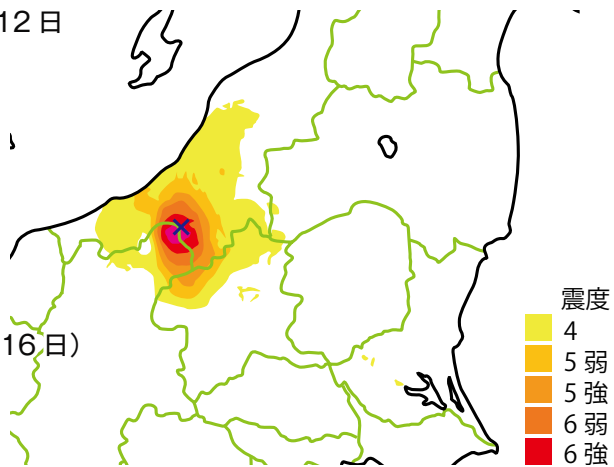
震 源／長野県・新潟県県境付近
深さ 8 km

最大震度／6 強（マグニチュード 6.7）

地震回数／348 回
（3 月 12 日～4 月 12 日）

法適用等／災害救助法（3 月 12 日）
激甚災害指定（3 月 13 日）
被災者生活再建支援法（3 月 16 日）

●推計震度分布図（気象庁による）



被害の概要

人的被害／

死亡 3 名
（避難生活によるストレス・過労が原因とする災害関連死）

軽傷 10 名

建物被害／

住 家 694 棟

全壊 33 棟 大規模半壊 21 棟
半壊 148 棟 一部損壊 492 棟

非住家 1,048 棟

全壊 161 棟 大規模半壊 22 棟
半壊 119 棟 一部損壊 746 棟

ライフライン被害／

簡易水道等 13 施設

農業集落排水 49 箇所

合併浄化槽 195 基

道 路 264 箇所

河 川 2 箇所

治 山 14 箇所

農業被害／

農 地 832 箇所

農 道 137 箇所

水 路 134 箇所

ため池 5 箇所

公共施設等被害／

庁舎等

役場庁舎、駅前駐車場、消雪パイプ

福祉・医療施設

高齢者総合福祉センター、老人福祉センター、診療所など

学校施設（小・中学校）

校舎・プール・屋内外運動場、教員住宅 3 棟など

社会教育施設等

公民館 21 施設、文化会館、農村広場、旧東部小学校体育館
県宝「阿部家住宅」など

農業関係施設

堆肥センター、農林産物処理加工センターなど

観光施設

スキー場、中条温泉「トマトの国」、物産館など

消防施設 21 箇所

村営住宅 16 棟

孤立被害／

3 月 12 日

秋山地区（116 世帯 253 人）雪崩により国道 405 号 通行止め
3 月 12 日 9 時 通行止め解除により孤立解消

小滝地区（19 世帯 49 人）雪崩・土砂崩落により村道月岡志久見線 通行止め
3 月 12 日 15 時 ヘリコプターで住民救助

坪野地区（13 世帯 29 人）雪崩・土砂崩落により村道天代坪野線 通行止め
3 月 12 日 16 時 徒歩で避難

3 月 15 日

秋山地区（116 世帯 253 人）落石により国道 405 号 通行止め
3 月 19 日 17 時 通行止め解除により孤立解消

1

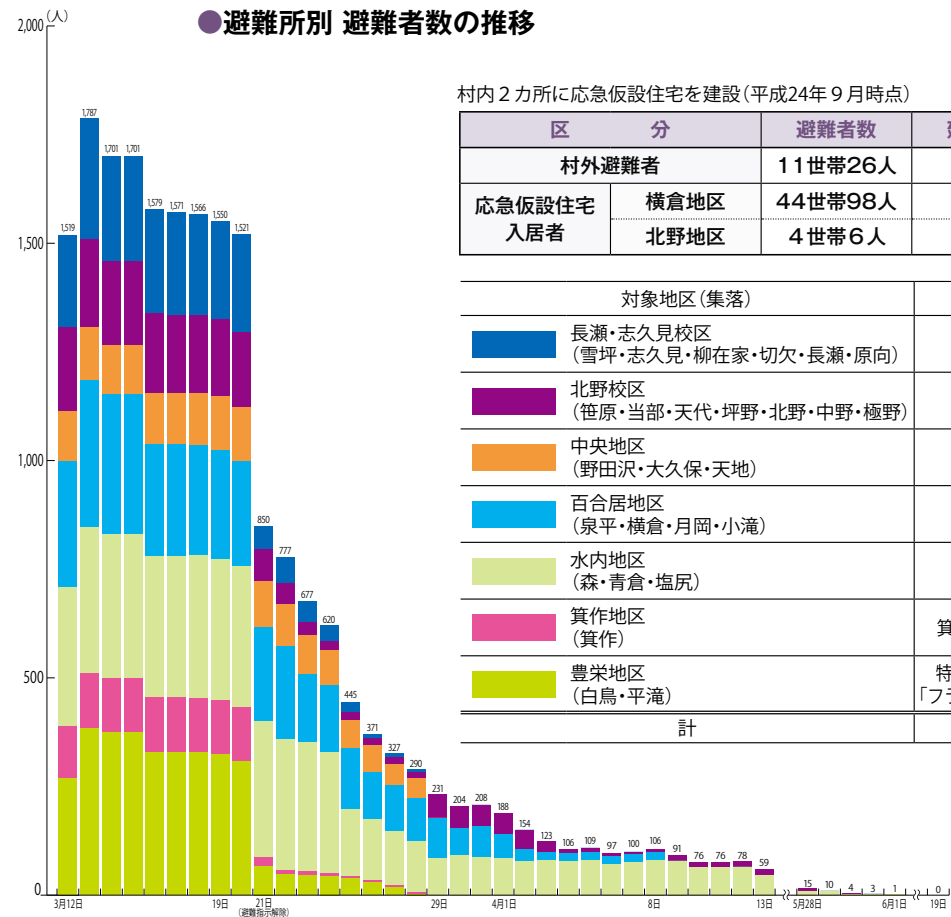
長野県北部地震による被害

平成23年
(2011)



復興イベント（平成23年）

2,000^(人) ●避難所別 避難者数の推移



●救助活動等の状況

消防団員出動	延べ人数	2,380 人（期間 3 月 12 日～3 月 31 日）
消防職員出動	延べ人数	90 人（期間 3 月 12 日～3 月 20 日）
応援要請に基づく消防団員出動 （出動市町村：飯山市・中野市・山ノ内町・木島平村・野沢温泉村、新潟県津南町）	延べ人数	215 人（期間 3 月 15 日～3 月 18 日）

指揮支援部隊（神戸市消防局）	1 隊	4 人（県庁着）
兵庫県隊	67 隊	269 人（飯山市道の駅「花の駅千曲川」進出）
奈良県隊	24 隊	91 人（長野市エムウェーブ進出）
航空隊（孤立地域〔小滝地区〕の避難者搬送）		
京都市ヘリ	1 機	5 人、大阪市ヘリ
		1 機 6 人

2月	1月	平成25年（2013）	12月	11月		10月	9月	8月	7月	4月	3月	2月	1月																																			
28日	4日		5日	26日	24日	15日	16日	1日	20日	3日	7日	19日	2日	22日	20日	1日	30日	1日	15日	13日	5日	1日	29日																									
栄村震災記録集「絆」を発刊		栄村歯科診療所長に益野歯科医師が就任	仮設住宅の取り壊しが開始		復興公営住宅が完成		横浜市栄区に栄村のアンテナショップがオープン		信州大学農学部との協力協定を締結		栄村秋山郷観光協会が設立		栄村震災復興計画を策定		副村長に斉藤家富氏が再任		森公民館が完成		ロンドン五輪メダリストの三宅宏美氏が来村		福幸そばの種まきを実施		天皇皇后両陛下、長野県北部地震の被災者のお見舞いのためにご来村		武蔵村山市に栄村のアンテナショップがオープン		村長に島田茂樹氏が無投票再選		栄村国際絵手紙タイムカプセル館及び山路智恵絵手紙美術館が再開		栄村診療所長に本村医師が就任		青倉公民館が完成		豪雪対策本部が残雪対策本部へ移行		第1回栄村震災復興計画策定委員会を開催		衆議院災害対策特別委員会（村井委員長以下13名）が豪雪地域の現地調査のために来村		奥田建国土交通副大臣が長野県北部豪雪地域の現地視察のために来村		救助対象世帯（112世帯）の雪下ろしと地区内道の除排雪等を実施		豪雪により災害救助法が適用		午前10時に豪雪対策本部を設置 午後7時30分頃に中条橋が積雪により崩落	



福幸そばの種まき（平成24年）



天皇后両陛下お見舞い（平成24年）



復興計画策定委員会懇談会（平成24年）

1月		平成24年（2012）		12月		10月		8月		7月		6月																																							
28日	6日			26日	14日	30日	27日	20日	17日	16日	12日	11日	8日	7日	6日〜7日	22日	12日	11日	3日	30日	20日	12日	1日																												
森宮野原駅前に生鮮食料品店がオープン		仮設住宅の41歳男性が屋根の雪下ろし中に屋根から転落、翌日死亡		教育長に宮川幹雄氏が再任		国土交通省関東地方整備局・北陸地方整備局と災害時の情報交換に関する協定を締結		上郷中学校と栄中学校が綱引きで交流する最後の「しなちく祭」が開催		第1回栄小学校音楽会が開催		横倉仮設住宅集会所に併設の仮設食料品店がオープン		横倉仮設住宅に仮設の集会所が完成		後7カ月を経過して〜」を開催		信州大学中山間地域プロジェクトとの共催によるシンポジウム「復旧・復興の現状と今後の課題〜震災		栄村収穫祭が開催		信州プロレス「無茶フェス2011in栄村」が、栄中学校体育館で開催		復興祈念花火大会が横倉農村広場で開催		栄村災害弔慰金支給審査委員会が死亡者3人を「災害関連死」に認定		作付困難な水田にそばの種まきを実施		「サイトウキネンフェスティバル出前コンサート」が、かたくりホールで開催		「グルツとまる〜こと栄村サイクリング特別編」が開催		栄村農事放送農業協同組合の清算総会及び解散記念式典が開催（3月17日から延期）		栄村震災対策本部を解散し、栄村震災復興本部を設置		中条川土石流災害に関する避難勧告解除		「清水アキラスペシャルショー」が、かたくりホールで開催		午後3時に国道117号の大型車（8t超）通行止め解除		横倉農村広場に第2次分の仮設住宅15戸が完成し、入居開始		栄村役場の避難者数が0人になり、全ての避難所を閉鎖		復興イベントが役場村民広場で開催		北野天満温泉の避難者数が0人になる	



崩落した中条橋（平成24年）



復興祈念花火（平成23年）



清水アキラスペシャルショー（平成23年）

7月	6月	5月	4月
14日 ～ 29日	5日	15日	27日 1日
熊本地震への災害支援として、熊本市嘉島町へ役場職員2名を派遣	全国植樹祭にて天皇皇后両陛下、村長と懇談	村長に森川浩市氏が就任	秋山小学校が栄小学校に統合され、秋山分校となる 北信薬剤師会と災害時の医療救護活動及び医薬品等の供給に関する協定を締結 飯水歯科医師会と災害時の歯科医療救護活動に関する協定を締結 一般社団法人飯水医師会と災害時の医療救護活動に関する協定を締結 栄村森宮野原駅前複合施設「絆」がオープン

平成28年（2016）

12月	11月	8月	7月	4月	3月
	1日	12日	10日 3～4日	22日 1日	14日 1日
栄村過疎地域自立促進計画を策定	村内全域を対象に、栄村総合防災訓練を実施 さかえ倶楽部スキー場が開業20周年を迎える	第1回栄村総合戦略会議を開催	栄村農産物直売所「かたくり」がオープン	「第20回全国小さくても輝く自治体フォーラムin栄村」が開催	栄村防災マップを策定 北陸新幹線が金沢まで延伸開業 栄村歯科診療所長に小林歯科医師が就任 秋山地区に地域おこし協力隊員3名を配置 栄村物産館「またたび」がリニューアルオープン

平成27年（2015）

12月	11月	10月
22日	18日 5日	21日 16日
苗場山麓ジオパークが日本ジオパークに認定	大規模土砂災害を想定した国土交通省・県・村の合同防災訓練実施 国道405号が東電導水路溢水により全面通行止	復興支援コンサート「シャンソンをあなたに」が、かたくりホールで開催 中条川砂防事業促進協議会が設立

10月	9月	8月	6月	4月	3月	2月
13日	3日	10日	25日 14日	28日 8日 1日	31日 13日 11日 9日	21日 ～ 24日
午後4時に中条・屋敷地区に避難準備情報発令	台風19号災害警戒本部を設置	栄村ライスセンターが完成	県知事に阿部守一氏が再選	杉良太郎コンサートが栄中学校体育館で開催	北信州植樹祭をトマトの国で開催 北野天満温泉チップボイラー火入れ式を開催 秋山地区に震度計を設置、運用を開始	大雪災害への支援として、山梨県山梨市へ役場職員3名を派遣 長野県文化振興事業団・八十二文化財団の主催による「追悼復興支援コンサート」が開催 各集落へAED、非常用発電機及び投光器を設置 栄村地域防災計画を策定 小滝復興プロジェクトチームが震災体験記録集「あの瞬間を忘れない」を発刊 復興支援員2名を追加配置（社会福祉協議会へ派遣） 栄村歯科診療所長に桜井歯科医師が就任

平成26年（2014）

12月	11月	10月	9月	8月	7月	5月	3月
25日	2日 1日	27日 15日 3日	16日	29日	10日	21日	22日
中条橋が開通	横浜市栄区と友好交流協定を締結	復興支援員1名を配置（社会福祉協議会へ派遣）	信州プロレス「無茶フェス2013 in 栄村」が、栄中学校体育館で開催	台風26号により中条川で土石流災害が発生する恐れが高まり、森（中条）・青倉（北向）地区に避難勧告	第1回復興推進委員会を開催	台風18号により中条川で土石流災害が発生し、栄村森林組合事務所が大規模な被害を受ける 森（中条）・青倉（北向）地区に避難指示	村内の避難所（公民館20施設）の耐震診断を開始 栄村社会福祉協議会内に「総合サポートセンター」を開設 栄村議会議員に福原和人氏が就任 村民住宅長瀬団地1棟8戸が完成



栄村森宮野原駅前複合施設「絆」オープン（平成 28 年）



栄村直売所かたくり（平成 27 年）



栄村直売所かたくりオープン（平成 27 年）



栄村ライスセンター（平成 26 年）



横浜市栄区と友好交流協定を締結（平成 25 年）



中条川の土石流災害（平成 25 年）

令和2年（2020）

平成31年・令和元年（2019）

平成30年
(2018)

平成29年(2017)

8月	6日	栄村歴史文化館「こらっせ」がオープン
10月	11〜12日	菅沢まつりが開催
11月	13日	村制施行60周年及び栄中学校開校40周年を迎える
12月	19〜20日	村制施行60周年記念共催事業としてプロレスイベント「SAKAE MANIA」を開催
	23日	44年ぶりに蒸気機関車が飯山線を運行
	5日	豊栄地区を対象に、栄村防災訓練を実施
		副村長に森重俊幸氏が就任



村制 60 周年記念式典（平成 28 年）



人生を共有する方

箕作 渡辺 俊男さん



「この場所で営業が成り立つのか。」

多くの方々の心配をよそに、2010年12月10日に中華料理「樓蘭」をオープンしました。しかし、翌年の3月12日、最初の冬を乗り越え「これからだ」という時に大地震に見舞われ、気持ちが沈みました。そんな中、避難先の公民館で集落の人々との寝食を共にし、役割分担を決め、互いを気遣いあう生活が私を癒してくれました。

そして、店の再開はワンコイン（500円）のバイキングに始まり、5月の連休時には3時間待ち

時間の流れは

切欠 齋藤眞吾さん



あの日から間もなく10年を迎えようとしている。

当日、被災者はそれぞれに違った環境の中、不安の日々を送っていたに違いない。当時副団長を務めていた私は、地震発生直後団長と共に本部に詰めていた。被災者の無事と火災が起らないことをただただ祈った。

あわただしい空気が流れる中、ようやく各分団長より被災者（全村民）の安否確認が取れたとの報告が団長に入った。

大規模災害等における消防団の重要性と災害時等への対応を意識した消防団活動の重要性を改めて



3 震災から10年を迎えて（村民からの寄稿）

痛感したときだった。

団員の昼夜を分かたず24時間にも渡る警戒態勢には、良く頑張ってくれたと感謝の言葉以外何もない。地震発生から4日目、被災者が待ち望んだ一時帰宅が実現した。

近隣の市町村の消防団の応援も大きな力となった。

私は、当時の事を決して忘れまいと思った。そして忘れてほしくないという感覚がある。

団長を引き継いだ4年間、常に災害の無い村であることを願った。高齢化が進みつつある栄村では消防団も厳しい状況下にある。

自然災害の力は計り知れない。だからこそ備えを持つことは重要であり、大切である。

自助共助で地域の防災力強化を願うものであり、防災意識を高めていきたい。



の行列となりました。口コミだけでも数年はかかると言われる中で、「樓蘭」の名は、瞬く間に新潟と長野の両県に知れ渡ることとなりました。

あれから10年、風雪の中での駐車場確保に苦悩し、往復3時間の仕入れとの戦いに、何度天を仰ぎ、呟いたことか。昨年の12月26日を最後に、店を閉じた今、顧みて思うことは、「すべての事、相働きて益となす」という聖書の言葉が実体験として与えられていたということ。この言葉には、「その時、及びもつかなかった出来事や試練が全て益となった」という意味があります。

今後は信仰に殉じる晩年を妻と共に歩んでいきたいと願っています。

「まだ見ぬ人生、夢ひとつ叶えるために在る。」
新たな人生の旅立ちです。





夢に向かって歩み続ける

小滝 樋口 正幸さん



あれから10年。がむしやりに走り続けてきた。失意でどん底な毎日の1年目、中越地震の復興状況を学びに行った。そこで希望と勇気をいただいたことは忘れることができない。「みんな戻って今までどおり小滝で暮らそう」と声をかけ続けた2年目、1年9か月を経て人は戻ったが、4戸6人が集落を離れることとなった。12月1日を「小滝復興の日」と銘打ち毎年顔を合わせて歩みを振り返っている。3年目、みんなの想いを込めた「小滝震災復興計画」を策定した。掲げる夢は「300年後に小滝を引き継ぐ」とし、集落全員

が同じ方向を向き、歩み始めた。①積極的な発想と環境整備②資源の見直しと活用③集落外の人々との交流活動。3つの柱は「暮らし続けられる集落づくり」定住対策である。交流活動により小滝の素晴らしさに改めて気づいた。地域資源を見直し「コタキホワイト」という米のブランド化に挑戦。4年目には集落全戸が加入の「合同会社小滝プラス」を立ち上げた。計画に掲げた事業のほとんどを行うことができた。多くのみなさんのご支援をいただき、夢が手に届くように思えてきた。「支援をいただいた皆さんに、歩み続ける小滝を見ていただくことが恩返し」が合言葉である。これからも力を合わせ仲良くステキな小滝づくりをしながら歩んでいきたい。まだまだ300年後の10年でしかないのだから・・・



あの時

野田沢 宮川 裕子さん



前日は飯山の保健所で管内保健師の研修中、震度3の揺れに私だけ机の下にもぐっていた。まさか翌朝栄村に大地震がくるとは思っていなかった。

避難所は雪も降り、余震の続く大変な暮らしだった。安心、安全を第一に仲間と全力で取り組んだ。県や近隣の医師、保健師、健康運動指導士会、作業療法士会など、保健医療関係者に多大な協力、応援をいただいた。

県在宅看護職の会の会員がチームで集落に入り、私たちに代わって住民の話を聴き、相談にのってくれた。集団風邪や食中毒などは発生しなかったが、3名が関連死されたことはとても悲しいことだった。

昨春、村中をまわる機会があつ

たが、空家と耕作放棄地が多くなったと実感。公民館に集い、体を動かし、笑いに汗したあの頃が懐かしく思えた。「おい皆、元気かー」

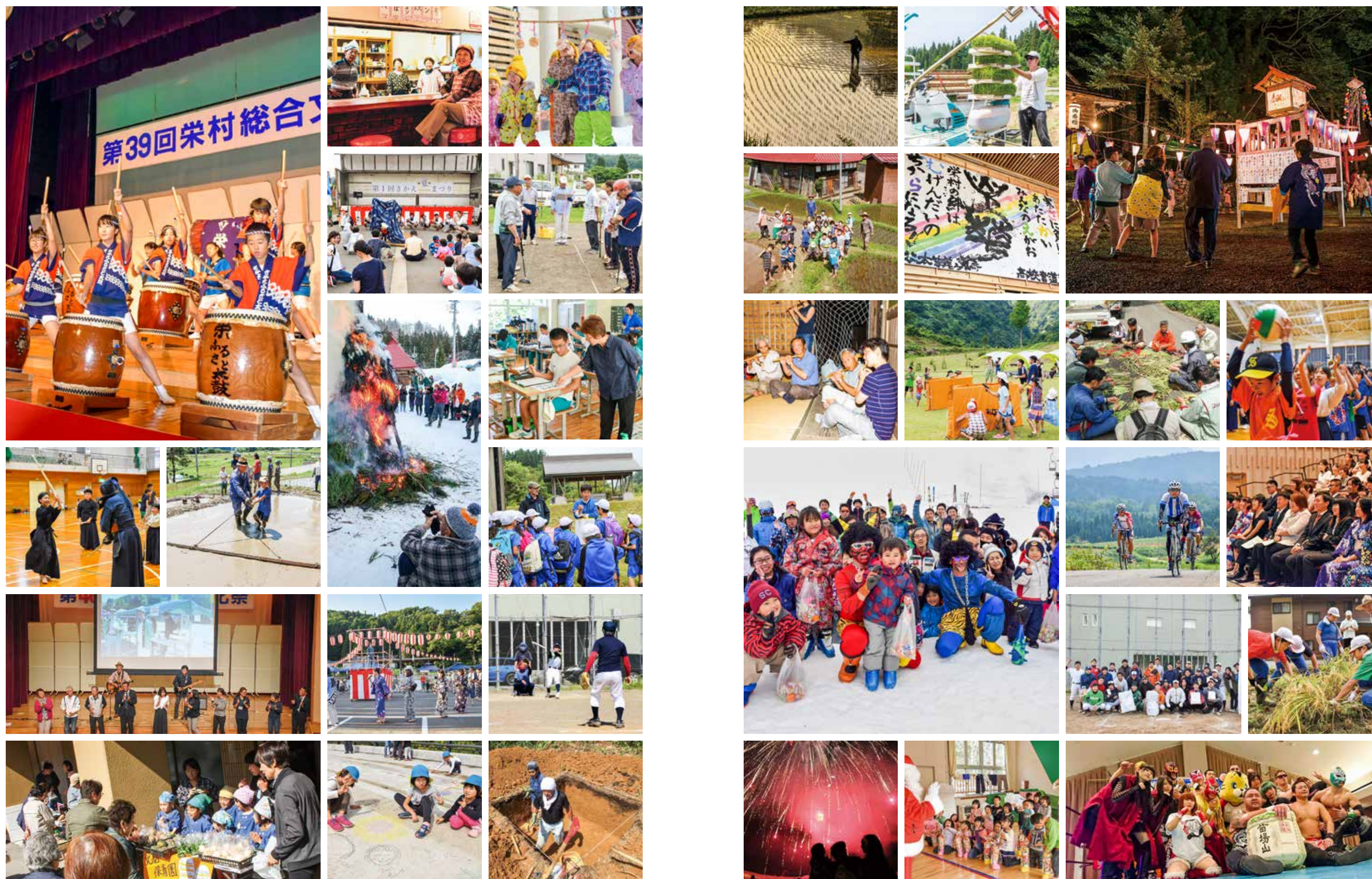
退職して8年、専業農家。自家用米はハゼかけ、野菜は有機減農薬を心がけ、少し直売所に出荷している。夫の趣味の山ブドウ栽培は助手。秋の収穫とワインづくりを楽しんでいる。ひざ腰で医者がかかりだが、無理をせずやっている。世話になった在宅看護職の会の仲間になり、私にも何かできることがあればと思っている。

私たちにはあの時、地域のつながりと助け合いで乗り越えた大きな力がある。これからも人とのつながりを大切に、前を向いて歩みたいと思う。





4
写真で振り返る 10 年



栄村歌

一、ここ信濃路の 最果ての
はてしも知らぬ 深き山
無限の宝庫 抱きつつ
われら相寄り 村を成し
人直くして なごやかに
永遠にさかえむ わが栄村

二、国の境を 貫きて
ゆく水きよき 千曲川
この山河に 生い立ちて
つよく正しく 生き抜かむ
高き使命を 背に負ひて
常にあかるし おお栄村

三、ながきみ冬と たたかいて
日々新たなる 今の世に
郷土拓かむ 希もち
雄々しく我ら 起つときに
そこに尽きせぬ 生気充ち
進みて止まぬ ああ栄村

10 栄村震災
年のあゆみ

栄村震災記録集「絆」別冊版

発行日 令和3年3月12日
発行 長野県 栄村役場
〒389-2792
長野県下水内郡栄村大字北信3433
TEL.0269-87-3111(代)
編集 栄村役場
制作 有限会社津南印刷商事



